

## 芳賀町の民話① 芳志戸左門

現在、私たちは文字や映像などのさまざまな情報技術を使って、物事を記録しています。しかし、情報技術が十分ではなかった時代、人々は口から口へと物事を伝えていきました。いわゆる、「口承」と呼ばれるものです。口承は「伝説」「昔話」「世間話」といったジャンルに分けられ、芳賀町でも多くの口承が残されています。今回から「芳賀町の民話」と題して、町中に残されてきたさまざまな口承を紹介していきます。

なお、今回からのシリーズは、冊子『芳賀町の民話』（監修 柏村祐司・再話 渡辺恵美子）、『はがまの民話』（芳賀町社会教育課文化係）に基づくものです。

むかしむかし、芳志戸に芳志戸左門という大泥棒がいました。左門には、茂木の四郎左衛門と大谷の城山のながしという仲間がいました。いつも3人で組んで、金持ちから金品を盗んでは貧しい人に分け与えていたので、村の人たちは左門を義賊と呼んでいました。

左門はたいへん足が速く、一反（10m）のもめの布を背中からたらし、走っても、その布のはしが地面につかないほどだったそうです。泥棒も早わざで、すばやい仕事をしましたそうです。

家族も、いつ泥棒の仕事に行つて、いつ帰つてきたのか、わからなかったほどだといひます。

ある時、仲間3人で組んで日光東照宮の『東照大権現』という大きな額を盗みました。3人は得意になって、額を船にのせて大谷川を下つて来ました。しかし、この時ばかりは、川下で待ちかまえていた大勢の幕府の役人に捕まつてしまい、とうとう火あぶりの刑になつてしまいました。左門のお墓は芳志戸の東の台地にあるジキボリ山に今も残っています。

資料の原展：『芳志戸の民話』（芳賀町史報告書第七集）



▲芳志戸地内にある荷渡権現

また、芳志戸にある荷渡権現は左門の屋敷のあつた所だといわれています。火振塚という小さな山は、左門が仲間と連絡をとるために、のろし（合図のために火を燃やしたり煙を上げたりすること）を上げた場所だといひ伝えられています。

## しまたかしの 芳賀の自然

48



### オニヤンマ

トンボ目オニヤンマ科

写真提供=芳賀町自然に親しむ会 撮影場所:町内

分布=北海道～九州  
 生息地=平地から山地の小川や溪流  
 時期=6～9月  
 大きさ=全長90～100mm  
 後羽の長さ58～63mm  
 特徴=日本産の最大のトンボ。左右の複眼が一点で接している。木立の縁部や路上に沿ってパトロールするように何回も往復する。停滞飛翔しながら流れの緩い河面に産卵する。

### 編集後記

広報はが4月号

□昨年は、震災の影響で中止となった「さくら祭り」が今年は4月15日にかしの森公園で開催されます。

桜の開花も、その年によって前後しますが、さくら祭りのころにちょうど満開になってくれるといいですね。  
 □とはいえ、イベントに関係なく、桜が咲けば、自然と人は集まり「お花見」が始まるんですよ。

(Y)



▲かしの森公園東側

◎編集 芳賀町広報広聴委員会

☎028 (677) 6032 ✉kouhou@town.haga.tochigi.jp

◎発行 芳賀町企画課

栃木県芳賀郡芳賀町大字祖母井1020番地

◎芳賀町ホームページアドレス

http://www.town.haga.tochigi.jp

◎芳賀町の携帯サイトはコチラから➡



この印刷物は、ESPAのゴールド基準に適合した地球環境にやさしい印刷方法で作成されています  
 ESPA：環境保護印刷推進協議会  
 http://www.espa.com